

早川 雄基 氏 YUKI HAYAKAWA

株式会社H3 代表取締役社長



障害者が笑顔で社会参画できる仕組みをつくる

企業情報

企業名：株式会社H3
 所在地：810-0035 福岡県福岡市中央区梅光園2-2-1
 業種：障害福祉サービス
 資本金：50万円
 従業員数：36名(うち、利用者数27名)
 活動エリア：福岡市内の特定地域

取材日(令和6年1月19日)現在

解決を目指す社会課題

雇用の場の維持、雇用の確保、地域における学びの充実、地域のデジタル社会への移行/デジタル化対応、地域コミュニティづくり



2050年には、障害の有無に関わらず、誰もが当たり前コミュニケーションを取れる世の中になってほしい。今後、人口減少に伴い、社会保障費の負担が増えていく。そのなかで、障害者が納税者になるためには、コミュニケーションが重要。障害を理由に「伝わらない」と決めつけるのではなく、お互いに「伝え合う」ことで相手を理解し、前向きな関係を築く人が増えてほしい。

事業の概要

IT教育で障害者を納税者に変える

「笑顔で幸せに」を経営理念に掲げる株式会社H3は、福岡市に拠点を置く就労継続支援A型事業所である。就労継続支援A型事業所とは、病気や障害などにより、一般企業で働くことが難しい人と雇用契約を結び、就労機会や職業訓練を提供する障害福祉サービス施設である。事業所で働く利用者は、スキルを身に付けると同時に、最低賃金以上の給与が保障される。

同社の特徴は、IT・システム開発に業務内容を特化している点である。その業務は、ウェブサイト制作、アプリ開発、ソフトウェアのテスト、グラフィック制作など多岐にわたる。利用者は主に精神障害を中心とした20～50代の方が中心で、2024年1月現在、27名がスタッフのサポートを受けながら開発業務に従事している。高度なプログラミングを習得できる事業所は全国でも珍しく、遠くは北海道からも利用者を迎えている。

同社が目指すのは、障害者に十分な所得を得られるようなスキルを提供し、「納税者」に変えること。パートナーと連携の上、「営業」「教育・就職」「開発・障害福祉」という3つの側面から、障害者の社会進出を促進し、障害者との共生という社会課題を解決するための仕組みを構築している。

「営業」を担うのは、パートナー企業で早川氏も経営に参画している合同会社イーマージである。イーマージは、ウェブサイト制作を5万円台から提供するなど、価格競争力が強みの一つだ。同社に開発業務を委託することで、開発費用を抑えることが可能になる。

「教育・就職」については、一般社団法人STONESと連携して支援する。STONESは、障害者が自分の能力を社会で発揮するための教育研修や、一般企業との

マッチング機会を提供している。これまでも、同社を利用する障害者を対象に1年半のプログラミング研修を実施し、成果を上げている。具体的には、研修を受講した20名のうち、15名がIT・システム開発の実務を担えるレベルにまで成長。4名が一般企業への就職に成功している。また、受け入れ側の「開発・障害福祉」を担う同社は、障害を持つ人が成功体験を積む場を提供する。

同社の事業所には、豊富な経験をもつエンジニアがスタッフとして常駐している。スタッフと一緒に開発業務を経験しながら、実践的な技術を習得することができる。そのため、現時点では一般企業への就労移行が難しい障害者も、同社で実務経験を積むことで、就職の可能性を高めることができる。STONESとも連携しながら一般企業とのマッチングを進め、障害者が納税者となる仕組みを設けている。

同社の収益は、約5割がイーマージからの業務委託や、外部の障害福祉関連施設に提供するIT研修の講師料などから構成される。これらに、国民健康保険団体連合会から支給される給付金も加わる。自社事業で利用者の賃金をまかなえない就労継続支援A型事業所が多い中で、同社は着実に収益を上げており、事業性を確保しつつ、社会課題解決の取組につなげている。



事業所内で講演会を実施

社会課題への対応

世の中がまだ知らない障害者の才能を伸ばす

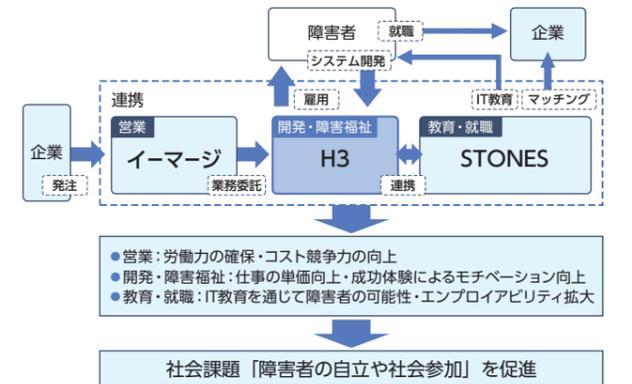
近年、働き手の不足の深刻化に伴い、様々な施策が行われている。障害者の社会進出にも期待が寄せられている。その一方で、法定雇用率を満たす一般企業は、未だ5割程度に留まる。早川氏は、創業する前に、洋服のリフォームを請け負うA型事業所に、7年間勤務した経験がある。その時に実感したのが障害者の可能性である。

洋裁が苦手で、事業所内で孤立していた利用者の存在がいた。見かねた早川氏がやりたいことを尋ねたところ、その利用者は「動画を作りたい」と答えたという。試しに教えてみたところ、利用者は自分で動画編集ができるようになった。「大きな可能性を感じました」と、早川氏は話す。その後、希望者を募り、プログラミングを学ぶ機会を設けた。受講した利用者は、1ヵ月半ほどで基礎がマスターできたという。

早川氏は、障害者とITの組み合わせに将来性を感じ、2022年に独立して同社を創業。「挑戦できる環境や成

長を待てる体制があれば、障害に関わらず、誰もが本来の能力を発揮できる」と、早川氏は話す。福岡から成功事例を作ることで、より多くの障害者の可能性を広げ、社会進出を後押ししていく。

<図表：ビジネスモデルと社会課題>



今後の展望

誰もが笑顔で働ける未来に向けて

同社は、今後に向けて3つの展望を描いている。まずは、顧客の拡大。イーマージと連携して、低価格帯のウェブサイトを切り口に、新規顧客の開拓を進めていく。そこから、より単価の高いシステム開発やデータ管理などの受注につなげていく狙いがある。次に、同社で働く利用者の技術力を高める。今後は、事業所内でAI開発の技術が習得できる体制も整える計画である。

最後に、障害者が社会進出できる仕組みを拡大していく。現在、パートナーのSTONESが中心となり、サテ

ライトオフィスをつくる構想を描いている。サテライトオフィスでは、障害者が、福祉専門のスタッフからサポートを受けながら、仕事に従事できる環境を整える。このサテライトオフィスを活用することで、障害者と働く環境やノウハウがない一般企業も、障害者を雇用しやすくなる。また、一般企業のオフィスでは就労が難しい障害者にとっても、就労移行の可能性が拡大する。早川氏は、この3つの展望をもとに、誰もが笑顔で働ける社会の実現に向けて邁進していく。